

医薬品リスク管理計画
(RMP)

本資料は医薬品リスク管理計画に基づき作成された資料です

コパキソン®を
使用されている患者さんへ

コパキソン®を
使用されている患者さんへ

コパキソン®皮下注20mgシリンジ
患者さんの疑問を解消するための

Q & A

医療機関名

電話番号

コパキソン®皮下注20mgシリンジ
患者さんの疑問を解消するための

Q & A

ご家族の方と一緒に読んでください

監修

清水 優子 先生

東京女子医科大学 医療安全科・脳神経内科兼務 教授

 T'sファーマ株式会社

2026年3月作成
COP-P05C-CMRA
COP-JP-00077



Contents

多発性硬化症について

- Q1. 多発性硬化症とはどんな病気ですか? 3
- Q2. 多発性硬化症の主な症状について教えてください。 4
- Q3. 多発性硬化症の原因について教えてください。 5
- Q4. 多発性硬化症は遺伝しますか? 6
- Q5. 多発性硬化症は感染しますか? 6
- Q6. 妊娠・出産を希望していますが、問題ないですか? 7
- Q7. 母乳による育児を希望していますが、問題ないですか? 8

日常生活について

- Q8. 食事で気をつけることはありますか?
タバコは大丈夫ですか? 9
- Q9. お風呂には入らないほうがよいですか? 10
- Q10. 直射日光に当たらないほうがよいですか? 11
- Q11. 運動はしてもよいですか? 12

コパキソン・自己注射について

- Q12. 注射を忘れたときは、どうすればよいですか? 13
- Q13. 副作用が起きたときはどうすればよいですか? 13
- Q14. 海外旅行に行きたいのですが、
どうすればよいですか? 15
- Q15. シーシンク®(CSYNC®)に使用期限はありますか? 16
- Q16. コパキソンはどこに保管すればよいですか? 16
- Q17. コパキソンはどこに注射すればよいですか? 17
- Q18. 注射の際、シリンジの空気は抜くのでしょうか? 18
- Q19. 注射は1日のうち、いつ打てばよいですか? 19
- Q20. 注射部位はもんだほうがよいですか? 19

社会的支援について

- Q21. 多発性硬化症で受けられる公的助成制度について
教えてください。 20
- Q22. 仕事をしたい、仕事を続けたいのですが、
受けられる支援はありますか? 21

多発性硬化症の情報源

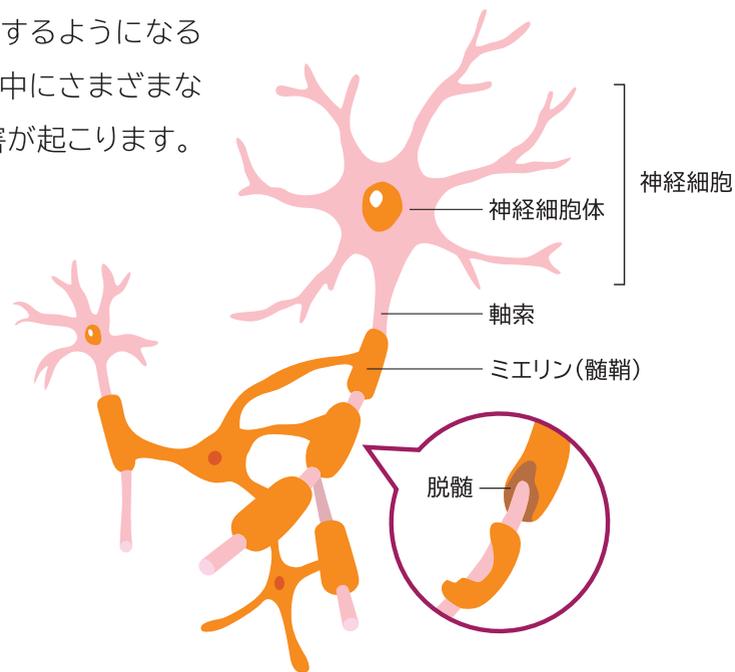
22

多発性硬化症について

Q1 多発性硬化症とは どんな病気ですか？

A 多発性硬化症は、脳、脊髄、視神経などの中枢神経系に発生する病気です。

神経は、神経細胞から伸びる軸索とよばれる部分を、ミエリン（髄鞘）とよばれるさやのようなものが覆う構造になっています。多発性硬化症では、このミエリンに炎症が起こり、ミエリンが剥がれ落ちた結果（脱髄）、脳からの命令が伝わるのが遅くなったり、異常な命令が伝わったり、あるいは命令そのものが伝わらなくなったりするようになります。など、体中にさまざまな神経障害が起こります。



Q2 多発性硬化症の主な症状について 教えてください。

A 多発性硬化症は、脳、脊髄、視神経などに病巣（脱髄）ができ、その場所によって、さまざまな症状がみられます。



この病気の症状や経過には個人差が非常に大きく、ここに書かれているような症状がすべて出るというわけではありません。

Q3 多発性硬化症の原因について教えてください。

A 多発性硬化症が起こる原因についてはまだわかっていません。多発性硬化症になりやすい体質と、何らかの環境因子が影響し合って、多発性硬化症を発症すると考えられています。多発性硬化症の発症に関連する環境因子としては、感染症、ストレス、高緯度や短い日照時間、ビタミンDの不足、喫煙などがあります。



Q4 多発性硬化症は遺伝しますか？

A 多発性硬化症は遺伝病ではありませんので、遺伝しません。ただし、アレルギー体質が遺伝するように、多発性硬化症のなりやすさに関わる体質遺伝子が遺伝することはありえます。



Q5 多発性硬化症は感染しますか？

A 多発性硬化症を発症させるウイルス等は現時点では、見つかっていません。したがって多発性硬化症が感染することはないと考えられています。



Q6 妊娠・出産を希望していますが、問題ないですか？

A 多発性硬化症が原因で妊娠しづらくなることや、出産に悪影響を及ぼすことはありません。多発性硬化症を理由に妊娠をあきらめることはありませんが、妊娠を希望する場合は病状が安定していることが重要です。妊娠を希望する場合は、病状を安定させるための治療を行いましょう。治療中の場合は、治療薬によって妊娠・出産への影響が異なりますので、妊娠後の治療方針について、事前に主治医の先生と相談しましょう。治療中に妊娠が判明した際はご自身の判断で中止せず、必ず主治医の先生に相談してください。



Q7 母乳による育児を希望していますが、問題ないですか？

A 授乳は、主治医と相談しながら行っていきましょう。治療薬が母乳を通して赤ちゃんに影響する可能性があるかは、それぞれの薬によって異なるため、母乳による育児を検討している方は事前に主治医の先生に相談してください。また、できるだけ育児による疲労やストレス、負担を減らすことが大切です。



日常生活について

Q8 食事で気をつけることはありますか？ タバコは大丈夫ですか？

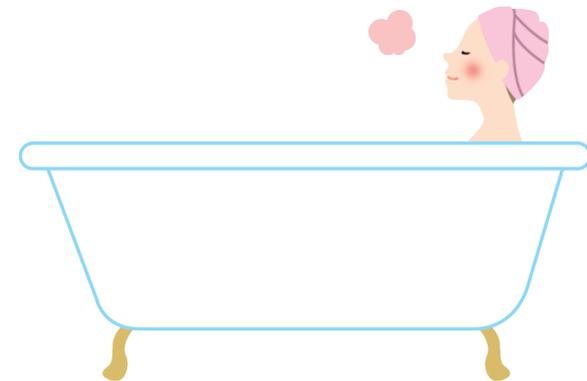
A 食事の制限は特にありませんので、普通の食事を楽しむことができます。アルコールやカフェインなども適量であれば問題ありません。

ただ、タバコについては多発性硬化症の発症リスクを高めたり、多発性硬化症の経過に悪影響を与えることがわかっているため、禁煙をしてください。



Q9 お風呂には入らないほうがよいですか？

A 入浴は必ずしも禁止ではありません。ただし、多発性硬化症では、ウートフ徴候とよばれる、体温の上昇に伴って、症状が一時的に悪化する現象があり、この症状が強い方は注意が必要です。症状が強い方は、熱いお風呂や長風呂は避け、ぬるめのお湯に短時間つかったり、シャワーですますようにしましょう。温泉などに行くような場合は、誰かに付き添ってもらおうとよいでしょう。



Q10 直射日光に当たらないほうがよいですか？

A 日光に当たりすぎると体温が上昇し、症状が一時的に悪化する可能性がありますので、特に炎天下では、体温上昇に気をつけて外出しましょう。なお、適度な日光浴は多発性硬化症の発症や悪化を抑制する可能性が報告されています。



Q11 運動はしてもよいですか？

A 体力・筋力を落とさないために、そして健康維持のためにも適度な運動を心がけましょう。運動内容は病状の程度にもよりますので、主治医の先生に相談してください。体調を考慮し、休憩をいれながら無理のない程度に続けることがポイントです。ただし、運動することにより体温が上昇しますので、特にウートフ徴候※があらわれやすい方は、体を冷やすような飲み物を用意し、運動時間や運動量に気をつけて運動しましょう。また、リハビリテーションの一環として運動を実施する場合には、理学療法士などリハビリの専門家に相談しましょう。

※「ウートフ徴候」については、Q&A 9を参照してください。



コパキソン・自己注射について

Q12 注射を忘れたときは、 どうすればよいですか？

A 気づいた時点で、速やかに注射してください。ただし、2回分を1度にまとめて注射しないでください。

Q13 副作用が起きたときは どうすればよいですか？

A コパキソンを注射した後に、注射直後反応、過敏性反応、注射部位反応とよばれる症状があらわれる場合があります。気になる症状があらわれた場合は、主治医の先生に相談してください。

注射直後反応

コパキソンを注射した後、数分以内に、**胸部または顔面の紅潮(血管拡張)**、**胸痛や胸部の不快感**、**短時間の息苦しさ(呼吸困難)**、**動悸または頻脈**などの症状があらわれる場合があります。これらの症状は軽度・一過性で、自然に消失する場合がありますが、**重度な場合や軽度であっても症状が続く場合は、過敏性反応のおそれがあることから、ただちに主治医の先生に連絡してください。**主治医の先生に連絡がつかない場合は、**救急外来を受診してください。**また、注射のたびに症状があらわれる場合も主治医の先生に相談してください。

過敏性反応

コパキソンの注射に伴い、**のどのかゆみ**、**持続する息苦しさ(呼吸困難)**、**発疹やじんましん**、**けいれん**、**失神**などの症状があらわれる場合があります。**これらの症状があらわれた場合は、次回以降の注射を中止し、主治医の先生に連絡してください。**主治医の先生に連絡がつかない場合には、**救急外来を受診してください。**

注射部位反応

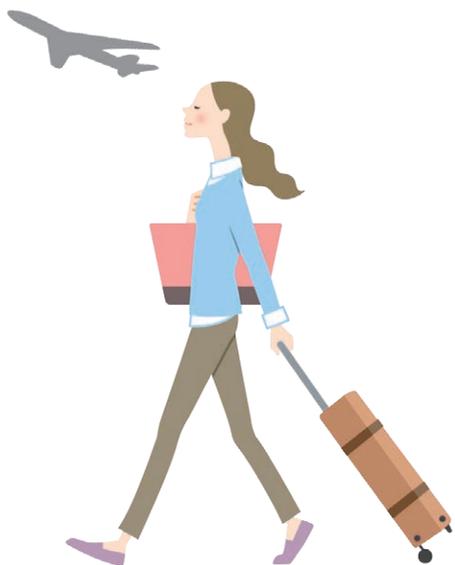
コパキソンの注射に伴い、**注射部位が赤くなったり**、**痛みが生じたり**、**かゆくなる**、**はれる**、**しこりができる**などの症状があらわれる場合があります。このような症状を減らすためには、**正しい注射方法を身につけることが大切です。**毎回、**注射部位を変え**、**注射後はもんだり**、**こすったりしないようにしましょう。**痛みの緩和のために**シリンジは十分に室温に戻して注射します。**注射の深さを浅くすれば、**痛みが緩和される場合もありますので、主治医の先生に相談してください。**

患者手帳の“注射の記録”のページを使って、注射した部位を記録しましょう。

ここに書かれている症状以外でも、気になることやわからないことがあれば、主治医の先生や看護師さんに連絡してください。

Q14 海外旅行に行きたいのですが、 どうすればよいですか？

A コパキソンは、2～8℃で保存する必要があるため、持ち運ぶ際には保冷バッグが必要です。また、一般的に飛行機では液体類の機内持ち込みが制限されていますが、医薬品は機内持ち込みの制限の対象外となっています。ただし、保安検査場で処方箋や診断書が必要な場合がありますので搭乗予定の航空会社にお問い合わせください。また必要に応じて、主治医の先生に英文の診断書やコパキソンを投与中であることを証明する書類を書いてもらいましょう。



Q15 シーシンク®(CSYNC®)に 使用期限はありますか？

※以降は『シーシンク®(CSYNC®)』を『シーシンク®』と称します。

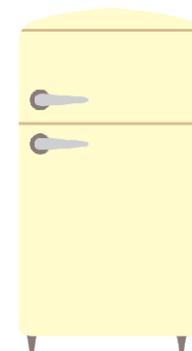
A シーシンク®は、使用開始から3年経過しましたら新しいものに交換してください。期限が近づいたら、かかりつけの医療機関にお申し出ください。

シーシンク®の使用開始日を忘れないように、自己注射ガイドブックの使用開始日記入欄に記録しておきましょう。



Q16 コパキソンはどこに保管すれば よいですか？

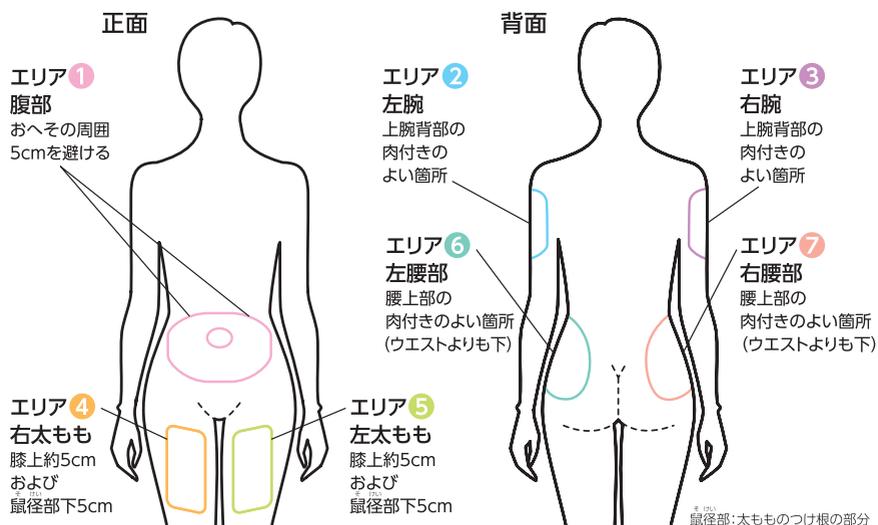
A コパキソンは、“遮光保存。凍結を避け、2～8℃で保存”する必要がありますので、凍結を避けるために、冷蔵庫の吹き出し口付近を避けて保存するのがよいでしょう。



Q17 コパキソンはどこに注射すればよいですか？

A コパキソンは腹部、上腕部、大腿部または腰部のそれぞれ左右の7か所に注射することができます(下図)。自己注射の指導を受けたご家族が注射することも可能です。ただし、原則として同一部位への投与は7日間あける必要があります。同じ場所に打つと、注射部位が赤くなったり、痛みが生じたり、かゆくなる、はれる、しこりができるなどの注射部位反応とよばれる症状があらわれる可能性が高まります。注射部位はコパキソン患者手帳などに記録し、同じ場所に続けて注射しないようにしてください。

注射部位マップ



Q18 注射の際、シリンジの空気は抜くのでしょうか？

A 空気を抜く必要はありません。コパキソン自己注射ガイドブックやコパキソン自己注射ガイドの動画の手順にしたがって、注射してください。



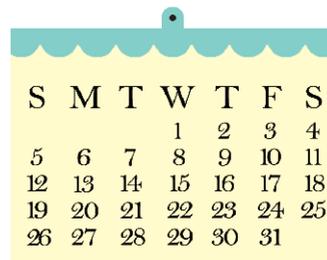
上記二次元コードより
自己注射の手順を説明した動画が
閲覧可能です

<https://www.ms-lounge.jp/video/csinc.mp4>

社会的支援について

Q19 注射は1日のうち、いつ打てばよいですか？

A 特に注射する時間に決まりはありません。ご自身の生活スタイルに合わせて、注射する時間を決めて打つとよいでしょう。ただし、2回分を1度にまとめて注射しないでください。



S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

Q20 注射部位はもんだほうがよいですか？

A 注射部位はもまないでください。



Q21 多発性硬化症で受けられる公的助成制度について教えてください。

A 多発性硬化症の診断を受けると、さまざまな公的助成制度を利用することができます。受けられるサービスはお住まいの地域や収入によって異なります。お住まいの都道府県や市区町村の窓口にお問い合わせみましょう。多発性硬化症で受けられる公的助成制度のうち代表的なものとして、以下の3種類があります。

難病医療費助成制度

多発性硬化症は難病法によって指定難病に定められています。多発性硬化症と確定診断され、「症状の程度が一定以上」あるいは「医療費が高額」の場合は、医療費の一部が公費で負担されます。都道府県に担当窓口があります。

身体障害者福祉

身体に障害が残った場合は、身体障害者手帳の交付が受けられます。市区町村に担当窓口があります。

生活費の助成

障害年金や生活保護などがあります。年金事務所や市区町村の担当窓口にご相談してください。

Q22 仕事をしたい、 仕事を続けたいのですが、 受けられる支援はありますか？

A ハローワークでは求職相談や障害者雇用の促進を行っています。各都道府県のハローワークに「難病患者就職サポーター」が配置され、総合的な就職支援を行っています。

また、障害者総合支援法では、一般企業の雇用に向けた支援（就労移行支援、就労継続支援）などのサービスがあります。

詳しくは、主治医の先生か、かかりつけの医療機関に医療ソーシャルワーカーがいる場合は医療ソーシャルワーカーに相談すると、いろいろ教えてもらえます。



多発性硬化症の情報源

難病情報センター

厚生労働省が難治性疾患克服研究事業（臨床調査研究分野）の対象としている疾患についての情報提供を、ホームページなどを通じて行っています。

ホームページURL www.nanbyou.or.jp